島根県水産技術センター　漁況情報　令和６年11月26日発行

トビウオ通信　(R6第10号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《令和６年度下半期浮魚中長期漁況予報》

令和６年10月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を参考に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類の令和６年度下半期（11月～3月）の漁況を予測します。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和６年度下半期(11月～3月)〕

マアジ:前年並み　　マサバ:前年を上回る
マイワシ:前年を上回る　　カタクチイワシ:前年並み
ウルメイワシ:前年並み

※「前年」は令和５年度下半期、「平年」は過去５年（令和元年～令和５年）の平均値を示します。

※10月データは速報値

マアジは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後　東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの年間漁獲量は、平成29年以降2.0万トン～3.2万トン程度で推移しています。令和５年の漁獲量は2.0万トンで、前年を下回り、平年並みでした。令和６年１月～9月の漁獲量は1.7万トンで前年同期並みでした(図1)。

直近の漁況や調査船調査の結果などから、日本海における今後（11月～3月）の漁況は前年並みで平年を下回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後　島根県の中型まき網によるマアジの年間漁獲量は、平成18年から平成30年にかけて2.0万トン～3.8万トン程度で推移していましたが、令和元年から減少傾向となっています（図1)。令和６年１月～10月の漁獲量は7.7千トンで、前年同期並みで平年同期の６割でした。月別の漁獲量は、６月を除き３月～7月まで低調に推移し、８月以降は前年・平年を上回りました（図2)。

今後（11月～3月）の漁況は、例年漁獲の主体となる０歳（令和６年生まれ)・１歳（令和５年生まれ）の来遊量によって決まるとされていますが、近年は１歳魚以上が主体となっています。毎年、島根県が他の研究機関と共同で行っているマアジ新規加入量調査※（マアジ０歳魚の山陰沖への来遊量の調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数が前年をやや下回っており、０歳魚は前年並みと予測されています。１歳魚の資源量は前年を下回り、２歳魚は前年並みとされています。これらの状況と、10月の漁況が好調であることから、今後（11月～3月）の漁況は、前年並みと予測します。

※詳細については「トビウオ通信令和６年第７号」をご覧ください。

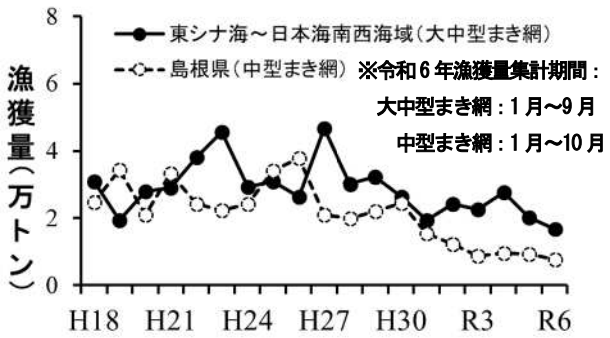

図１. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）
および島根県（中型まき網）のマアジの漁獲動向

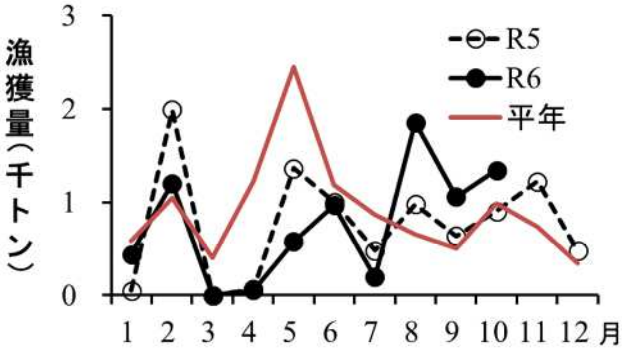

図２. 島根県の中型まき網によるマアジの
月別漁獲動向

マサバは前年を上回る

<u>東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後</u>　東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの年間漁獲量は、平成 23 年以降は 1.5 万トン～4.9 万トンで推移しています。令和５年の漁獲量は 2.9 万トンで、前年を上回り、平年並みでした。令和６年１月～９月の漁獲量は 2.2 万トンで前年同期を上回りました（図 3)。日本海における今後（11 月～3 月）の漁況は前年並みで平年を上回ると予測されています。

<u>山陰沖の漁況と今後</u>　島根県の中型まき網によるマサバの年間漁獲量は、平成 18 年以降、豊漁だった平成 28 年から平成 30 年を除いて 7.0 千トン～1.8 万トンで推移しています。令和６年１月～10 月の漁獲量は 2.4 万トンで、前年同期の 2.3 倍、平年同期の 1.4 倍でした（図 3)。

今後（11 月～3 月）の漁況は、漁獲の主体となる０歳（令和６年生まれ）・１歳（令和５年生まれ）の来遊量によって決まるとされています。以前は、秋季から翌年の春季までが主漁期でしたが、近年は主漁期が冬季（2 月以降）から夏季（6 月まで）となっています。漁獲の主体は０歳魚で１歳魚以上が混じります。０歳魚・１歳魚の資源量はともに前年並みと予測されています。資源状態は比較的良好であり、７月～９月の漁況は前年を下回ったものの 10 月は前年を上回っていることを考慮して（図 4)、今後（11 月～3 月）の漁況は、前年を上回ると予測します。

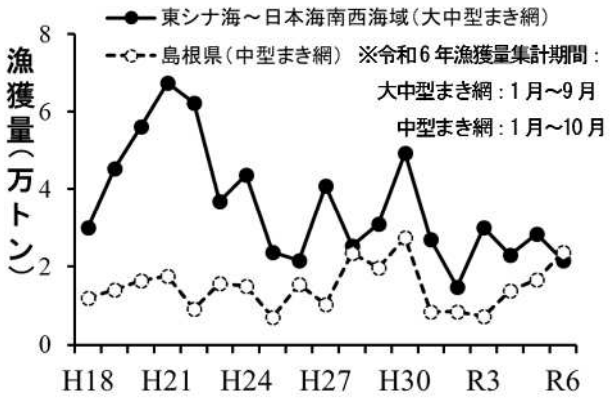

図3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）
および島根県（中型まき網）のマサバの漁獲動向

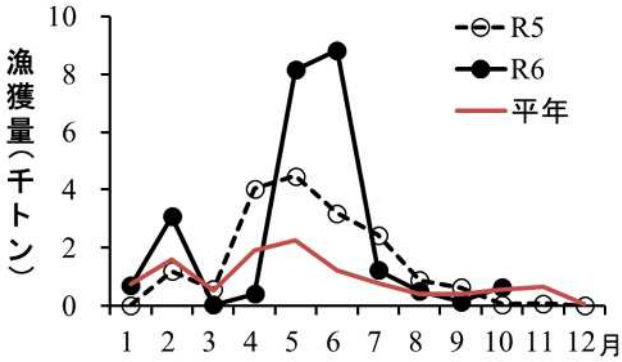

図4. 島根県の中型まき網によるマサバの
月別漁獲動向

マイワシは前年を上回る

山口県～鹿児島県沿岸域における令和 6 年 4 月～8 月のマイワシの漁獲量は 1 万 8 千トンで前年同期の 1.2 倍、平年同期の 9.7 倍でした。

島根県の中型まき網によるマイワシの年間漁獲量は、平成 22 年まで極めて不調でしたが、平成 23 年以降急増し、不漁だった平成 26 年及び令和元年を除いて 1.6 万トン～4.1 万トンで推移しています。令和 6 年 1 月～10 月までの漁獲量は 3.4 万トンで、前年同期並みで平年同期の 1.4 倍でした（図 5)。

今後（11 月～3 月）の漁況は、0 歳魚（令和 6 年生まれ）・1 歳魚以上（令和 5 年以前生まれ）の来遊量で決まるとされています。0 歳魚は、卵稚仔調査の結果から前年並みと予測されています。また、1 歳魚は前年を上回り、2 歳魚・3 歳魚の資源量はそれぞれ前年並みとされています。

島根県の漁獲量をみると、6 月～8 月は低調でしたが、9 月は約 7 千トン、10 月は約 4 千トンと好調であることから(図 6)、今後（11 月～3 月）の漁況は、前年を上回ると予測します。

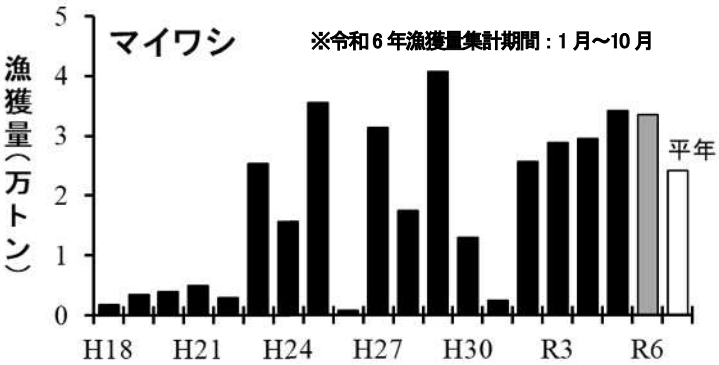

図 5. 島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲動向

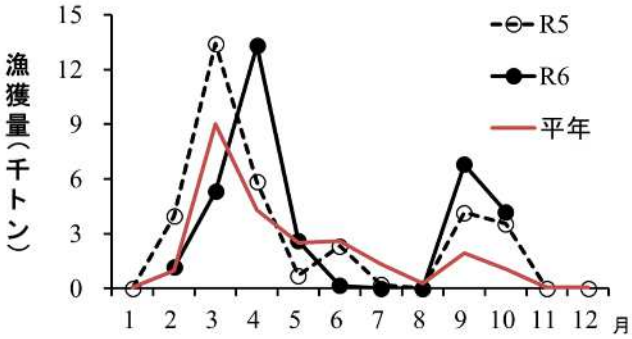

図 6. 島根県の中型まき網によるマイワシの月別漁獲動向

カタクチイワシは前年並み

山口県～鹿児島県沿岸域における令和 6 年 4 月～8 月のカタクチイワシの漁獲量は 1.9 千トンで前年同期の 7 割、平年同期の 3 割でした。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの年間漁獲量は、平成 22 年まで増加傾向にあり、平成 22 年に 1.5 万トンの漁獲がありました。その後は減少し、平成 28 年から令和 3 年までは、不漁であった平成 30 年を除いて 2.7 千トン～4.6 千トンで推移していましたが、令和 4 年以降は非常に少ない漁協が続いています。令和 6 年 1 月～10 月までの漁獲量は 542 トンで、前年よりは多いものの不漁が継続しています（図 7)。

今後の漁況（11 月～3 月）は、令和 6 年春生まれ(春季発生群) ・令和 6 年秋生まれ(秋季発生群)の来遊量で決まるとされています。春季発生群の資源量は前年を下回ると予測されており、秋季発生群は前年並みもしくは下回ると考えられています。これらのことから、資源量は前年を下回ると予測されています。

島根県では前年同様不漁が続いていることを考慮して(図 8)、今後（11 月～3 月）の漁況は前年並みの低調な漁獲になると予測します。

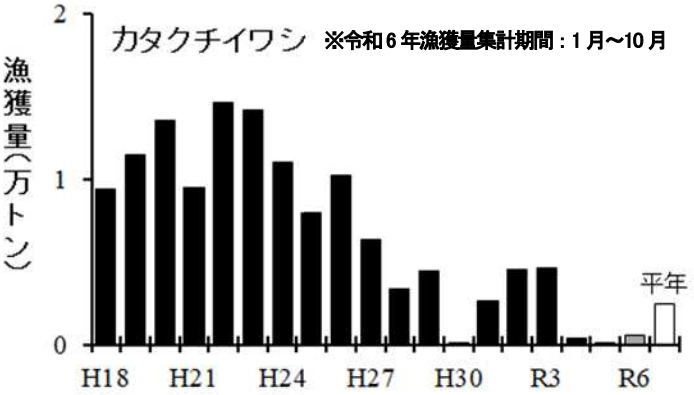

図 7. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向

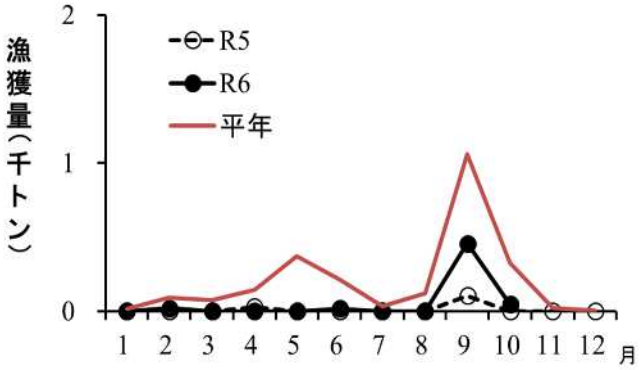

図 8. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシ月別漁獲動向

ウルメイワシは前年並み

山口県～鹿児島県沿岸域における令和６年４月～８月のウルメイワシの漁獲量は１万３千トンで、前年同期並みで平年同期の 2.4 倍でした。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの年間漁獲量は、平成 18 年以降、大きく増減を繰り返して 1.8 千トン～15.6 千トンで推移しています。令和６年１月～10 月までの漁獲量は 5.2 千トンで前年同期の４割、平年同期の５割でした（図 9）。

今後の漁況（11 月～3 月）は、0 歳魚（令和６年生まれ）・1 歳魚（令和５年生まれ）の来遊量で決まるとされています。0 歳魚および 1 歳魚の資源量は共に前年並みと予測されており、島根県では、11 月以降は例年漁獲量が減少する時期に入ることから（図 10）、今後（11 月～3 月）の漁況は前年並みと予測します。

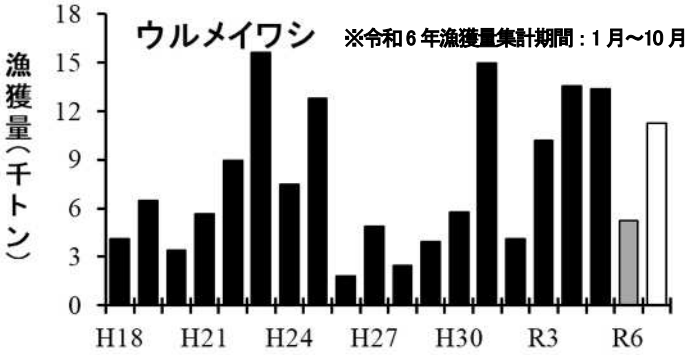

図 9. 島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向

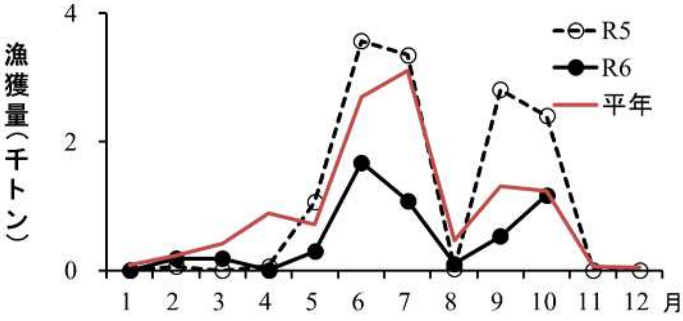

図 10. 島根県の中型まき網によるウルメイワシ月別漁獲動向